

# 第8回 男女共生のつどい

the 8th fukushima GENDER EQUALITY in iwaki  
いわき芸術文化交流館アリオス[大ホール]

いわき大会 2009.6.27.sat 10:30-16:00

内閣府が定める「男女共同参画週間」に合わせ、本大会は「福島県男女共生のつどい」いわき大会実行委員会主催により開かれました。県内各地から約1,000人が参加し、寸劇や講演などでワーク・ライフ・バランス(WLB=仕事と家庭の調和)への認識や理解を深めました。

閉会セレモニーでは、大会宣言を採択し、伊藤実行委員長が「共生の理念の下、すべての人が共に認め合い、支え合い、その切り口としてWLBを家庭・地域・学校・職場の中でより一層深めてほしい」と挨拶し、次の開催地会津若松市へ引き継ぎました。

男女別大会参加率



共に生きる  
つながる  
ひとつまちごと

あと3日しか生きられないとしたら？

「大人になるっていいぞー」と胸を張って言えますか？

明るい笑顔で「行ってきます！」と言っていますか？

プレトーク



東 浩司 (あずま こうじ)さん

NPO法人ファザリングジャパン会員。  
1971年生まれ、名古屋市出身、大阪大学人間科学部卒。外資系コンサル企業、山道具屋、居酒屋チェーン人事、学習塾、電力会社、NPOと計6回の転職を経て、昨年、株式会社ソーラー代表取締役役に就任。



「必死」と書いて「必ず死ぬ」と読む

私は6回の転職の中、今の不満と将来の不安が積もって、心労と過労からうつになりました。心の弱い人がうつ病になるというのは誤解で、必死に働くとは誰でもうつになる可能性があります。でも、そのような経験をしたことが、ネガティブな考え方をやめ、生き方を変える転機になりました。

娘の誕生で生活が変わった!!

正直に言うと、子どもが生まれると自分の時間がなくなっちゃうとか、経済的にしんどいなと思っていました。でも、実際に可愛い赤ちゃんの育児を始めたら、楽しさにはまってしまったんです。それまで会社のためになんて思っていたのが馬鹿らしく思えるほど、娘のために頑張ろうという気持ち自然に湧いてきました。

以前のように残業代は稼げませんが、娘の風呂に合わせて20時までに帰宅するようにしています。

笑っているパパが社会を変える

特に今の若い父親は、本音では育児をしたいんです。でも、帰宅は遅いし育休の取得率も低い。父親が夜や土日にいないと、自分の子どもや地域の子どもの教育問題って、父親のワーク・ライフ・バランスの問題なんです。仕事は大切だけど、心身を壊したり家族を犠牲にしてまでするもんじゃない。大切なのは、限りある時間をどう有意義に過ごすかという時間管理です。私は、娘のおかげで笑顔が増えました。これからも娘に生き生きと働く姿を見せ、太陽のように明るく元気に輝く父親でいたいと思います。



ワーク・ライフ・バランス寸劇  
部長が変われば、社員も変わる！

原案 安藤 哲也さん  
脚色・構成 蛭田 智道さん

出演 コント集団福庭うどん  
(社員) 田中 信一 蛭田 智道さん  
(妻) 田中 亜矢子 東野 里加さん (客演)  
(子) 田中 ようこ 島 なつみさん (客演)  
人吉部長 にしやま あつしさん (客演)

